

高齢化、農産物の価格低迷などにより、大変厳しい状況にあり、関連事業を進めるには、単に安定した畑かん施設を整備するだけではなく、同時にそれを契機にして、将来的にも安定した農業経営を築いていく道筋を示すことが大事だと考えています。

自然公園づくり

問 谷津田のある風景の自然公園づくりを図れないか。

市長 自然公園法に基づき、国又は県が指定する区域となる必要があるのですが、現在のところ谷津田を利用した公園施設としての具体的な計画はありませんが、今後の研究課題と考えています。

住宅の火災警報器の義務付け

問 周知方法と設置の理解について。

市長 平成16年6月に消防法の一部が改正され、新たに個人の住宅を含めたすべての住宅への「住宅用火災警報器等」の設置が義務づけられました。当市も、佐倉市八街市酒々井町消防組合条例により、新築住宅は平成18年6月1日から、既

存の住宅は平成20年6月1日からそれぞれ設置が義務づけられたことから、昨年より「広報やちまた」や消防組合広報誌「ダイヤル119」等に掲載するなど、普及啓発を図っているところで、今後とも広報等により、広く周知を図ってまいりたいと考えております。

個人
質問 **中田 眞司**

健康志向への対応

問 安全なウォーキングロードの設置を望むが如何か。

教育長 現在、けやきの森公園は、市民が自由にウォーキング等ができる園路を、また中央公園も、一部ですが、園路等を整備してあり、市民の皆さんが公園内を有効に活用し、ウォーキング等を行っているのを見かけています。

大関調整池は、隣接している歩道等を利用し、周回することが可能です。現在の施設で整備されているところを有効利用していただきたいと思います。

問 メタボリック症候群をどのように捉えているのか。
市長 メタボリック症候群



けやきの森公園

とは、内臓脂肪型肥満によって、さまざまな病気が引き起こされる状態を言います。いわゆる複合生活習慣病です。

不健康な食事や運動不足の生活習慣から起こるもので、初期の段階では自覚症状がほとんどないため、動脈硬化を進行させてしまうと云われています。メタボリック症候群の診断の判断基準では、内臓脂肪の蓄積が必須条件と位置づけられており、ウエスト周囲径が男性で85センチ以上、女性で90センチ以上を要注意とされています。そのほかに、血清脂肪異常・高血圧値・高血糖のそれぞれに基準値があり、この3項目のうち2つ以上が基準値以上の場合は、メタボリック症候群

と診断すると規定されています。本市は、昨年度、メタボリック症候群をテーマに内科医や運動講師等による集団健康教育を実施し、外食等による高カロリー・高脂肪食のとり過ぎと運動不足のリスクについてを啓発しました。

外来生物法

日本野の野外に生息する外来生物の数は、わかつていくだけでも10分類、約2千種にもなります。

問 特定外来生物10分類における対応は如何か。市として市民への周知は如何か。

市長 新たに平成18年2月1日より、43種類の生物が特定外来生物に指定され、



埋め立て処分場

今後必要に応じて、その現状把握を検討し、広報誌・回覧等により随時市民へ周知徹底を進めたいと考えています。

一般廃棄物処分場

問 現在までの処分量と今後の処分に対応できる年数予測はどの程度と捉えているのか。

問 平成9年に大規模なかさ上げ工事を施工し、処分面積4万2千200平方メートル、埋め立て容量40万5千800立方メートルの現在の処分場規模となり、主にプラスチック類及びガラス、陶器類、ゴム類

を埋め立て処分しています。平成17年度末現在の埋め立て処分量は、近年の廃棄物の増加と質の多様化が進む中、23万3千594立方メートルとなり、埋め立て残容量は17万2千206立方メートルとなっています。

なお、正確な埋め立て残容量は、今年度、最終処分場測量業務委託を予定していますが、平成13年度から17年度の5年間の平均処分量が、約1万5千立方メートルであることから、埋め立て期間は概ね12年となりますが、より延命に努めたいと考えています。

教育問題

問 学校への不法侵入者対策は如何か。